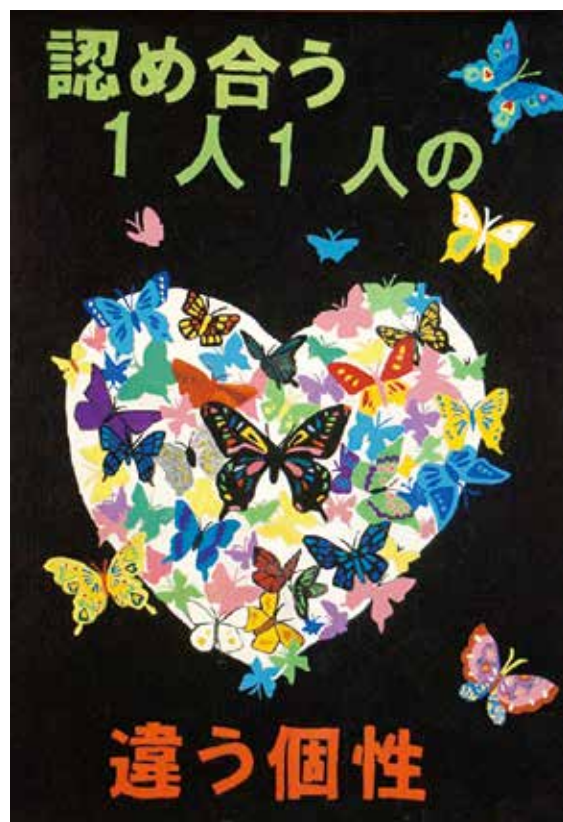


2015年度 白杵市人権作品集

人権標語・人権ポスター・人権作文



東中学校 3年 佐々木 優 花

笑顔の花 種をまくのは 私たち

西中学校 2年 菊 池 栞 奈

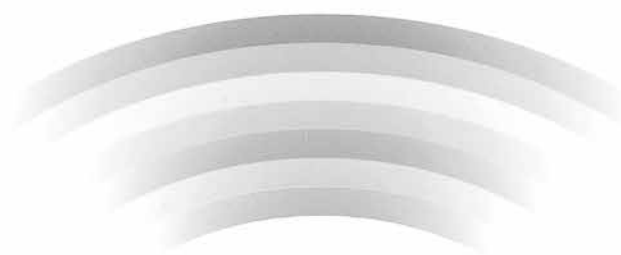
考えて 他人事(ひとごと)ですか その差別

白杵高校 2年 後 藤 舞

白 杵 市

しあわせな生活は みんなの願い ひとりひとりのしあわせを おたがいが守りあえる社会へ

人権はわたしたちがしあわせな生活を求め 守るための 権利
人権の尊重が 生活の中で当然とされる 人権文化の社会へ
わたしたちひとりひとりが そんな社会を築いていく
それが「人権の世紀」21世紀です
さあ 一步前へ踏み出しませんか
いま このときから



目次

平成27年度臼杵市人権作品入賞者一覧

1) 人権ポスターの部

市長賞 「認め合う 1人1人の 違う個性」	東 中 学 校	3年	さ さ き	ゆう か	優 花 … 1
議長賞 「なかよし」	下ノ江小学校	2年	あお き	そ ら	… 1
教育長賞 「命はひとつ 心もひとつ」	福良ヶ丘小学校	5年	やま もと め い	愛 衣 … 2	
優秀賞 「なかよし うんどうかい」	下南小学校	1年	きく ち ゆ い	菊 池 由 衣 … 2	
優秀賞 「ともだち たくさん」	市浜小学校	2年	おに ざき	鬼 崎 ひまり … 2	
優秀賞 「一人の大切な色」	上北小学校	3年	ふじ わら な な み	藤 原 奈々美 … 3	
優秀賞 「仲間」	下南小学校	4年	ほん た ひな た	本 田 陽 詩 … 3	
優秀賞 「気付いて」	佐志生小学校	5年	ふる しやう たい し	古 庄 泰 士 … 3	
優秀賞 「一番の宝物 それは仲間」	下ノ江小学校	6年	あん どう まさ や	安 東 真 哉 … 3	
優秀賞 「やさしさを届けよう」	北 中 学 校	1年	ひがし ほ め い	東 保 芽 依 … 4	
優秀賞 「1人で泣かないで」	野津中学校	2年	こ たま さくら	児 玉 櫻 … 4	
優秀賞 「届ける、想い」	西 中 学 校	3年	お じま ゆ い	雄 嶋 柚 衣 … 4	

2) 人権標語 小・中学校の部

市長賞	西 中 学 校	2年	きく ち かん な	菊 池 栞 奈 … 5
議長賞	川登小学校	3年	かわ わら な な	河 村 菜 菜 … 5
教育長賞	下南小学校	5年	すず き よし はる	鈴 木 快 晴 … 5
優秀賞	市浜小学校	1年	わた なべ こう だい	渡 邊 煌 大 … 5
優秀賞	下ノ江小学校	2年	あお き そ ら	青 木 そ ら … 5
優秀賞	南野津小学校	4年	はる やま い ぶき	春 山 伊 吹 … 5
優秀賞	市浜小学校	6年	かわ べ ま み こ	川 邊 麻実子 … 5
優秀賞	西 中 学 校	1年	み うら りゅう せい	三 浦 流 星 … 5
優秀賞	西 中 学 校	3年	か い こう すけ	甲 斐 昂 介 … 5

3) 人権標語 人権擁護委員の部

大分人権擁護委員協議会会長賞	川登小学校	5年	なかの 仲野	さやか 彩香	… 6
大分法務局人権擁護課長賞	臼杵南小学校	2年	きよはら 清原	いおり 惟織	… 6

4) 人権標語 高校・一般の部

市長賞	臼杵高校	2年	ごとう 後藤	まい 舞	… 6	
議長賞	一般		さかなし 坂梨	ゆきえ 幸江	… 6	
教育長賞	津久見高校海洋科学科	2年	ひがし 東	ゆい 優衣	… 6	
優秀賞	一般		おしま 尾島	まい 舞	… 6	
優秀賞	臼杵高校	2年	はまさき 濱崎	あい 藍	… 6	
優秀賞	臼杵高校	3年	さとう 佐藤	か 香	なみ 波	… 6

5) 人権作文の部

市長賞 「てつだいたいな」	佐志生小学校	1年	かめい 亀井	あすま 明日真	… 7
議長賞 「気付かされたこと」	北中学校	2年	かわの 川野	あすか 明日香	… 8
教育長賞 「コミュニケーションで分かること」	野津小学校	6年	ごとう 後藤	わかな 和叶	… 9
優秀賞 「友だちのこと」	海辺小学校	2年	にゅう 丹生	ひすい 妃翠	… 11
優秀賞 「思い切っていったら」	臼杵小学校	3年	すが 須賀	さくら さくら	… 12
優秀賞 「Aくん」	福良ヶ丘小学校	4年	わたなべ 渡辺	さく 咲	… 13
優秀賞 「五年生になって学んだこと」	市浜小学校	5年	かめい 亀井	まなと 真斗	… 14
優秀賞 「障がい者と向き合うために」	北中学校	1年	ちようそかべ 長曽我部	あかり 陽里	… 15
優秀賞 「左手の法則」	野津中学校	3年	たけお 竹尾	みなこ 皆子	… 16

人権ポスターの部

【市長賞】

認め合う 1人1人の 違う個性

東中学校 3年

佐々木 優 花

広い世界には、たくさんの方がいて一つ一つちがう個性であふれています。そんな個性を”みんなちがってみんないい”のように認め合ってほしいと思いました。個性がなければ、この世界は色がなくつまらない世の中になってしまいます。ちがう個性がそれぞれの色を出すことによって美しい世界になります。それをさまざまな色・柄のチョウで表しました。



【議長賞】 なかよし

下ノ江小学校 2年 ^{あお}青 ^き木 そら



わたしたち2年生7人はみんななかよしです。いつもにこにこしていたのしいようすを絵にかきました。一人ひとりの顔を見ながら、友だちがわたしにしてくれたやさしさをみんなにつたわるようにかきました。

【教育長賞】 命はひとつ 心もひとつ

福良ヶ丘小学校 5年 ^{やま}山 ^{もと}本 ^め愛 ^い衣



人には命は1つしかないし、心も1つしかないと考えて、この言葉をポスターにしてみました。1つ1つの心がわかりやすいように、心ぞうに手をそえました。1つの心をみんなが大事にして、これからもいじめのないクラスにしてほしくて、この絵を描きました。

【優秀賞】

ともだち たくさん

市浜小学校 2年
^{おに}鬼 ^{ざき}崎 ひまり



【優秀賞】

なかよし うんどうかい

下南小学校 1年
^{きく}菊 ^ち池 ^ゆ由 ^い衣



【優秀賞】

仲間

下南小学校 4年
ほん だ ひな た
本 田 陽 詩



【優秀賞】

一人の大切な色

上北小学校 3年
ふじ わら な な み
藤 原 奈々美



【優秀賞】

一番の宝物 それは仲間

下ノ江小学校 6年
あん どう まさ や
安 東 眞 哉



【優秀賞】

気付いて

佐志生小学校 5年
ふる しょう たい し
古 庄 泰 士



【優秀賞】

1人で泣かないで

野津中学校 2年
児^こ玉^{たま} 櫻^{さくら}



【優秀賞】

やさしさを届けよう

北中学校 1年
東^{ひがし}保^ほ芽^め 依^い



【優秀賞】

届ける、想い

西中学校 3年
雄^お嶋^{しま} 柚^ゆ 衣^い



人権標語 小・中学校の部

【市長賞】笑顔の花 種をまくのは 私たち

西中学校 2年 菊池葉奈

笑顔を花、そのきっかけを種と例え、私はみんなの心に種をまき、笑顔の花を満開にさせたいと思い、この標語を考えました。

【議長賞】友だちの にっこりえ顔が エネルギー

川登小学校 3年 河村菜菜

にっこり笑顔になることで、みんなが安心して、気持ちのいいエネルギーがいつぱいたまると思って作りました。

【教育長賞】つなげよう えがおのたすき いつまでも

下南小学校 5年 鈴木快晴

ぼくは、友達や家族が笑顔だと、なんだか気持ちがよくなります。だからぼくもみんなが笑顔になるように少し頑張っています。これからも永遠に笑顔が続けばいいなと思います。

【優秀賞】ともだちと わらっているとき たのしいな

市浜小学校 1年 渡邊煌大

【優秀賞】だいじょうぶ？ えがおで声かけ うれしいな

下ノ江小学校 2年 青木そら

【優秀賞】「どうしたの。」 ないてるわけを ききました

南野津小学校 4年 春山伊吹

【優秀賞】笑顔でね まあるい心 ふやすんだ

市浜小学校 6年 川邊麻実子

【優秀賞】目をあわせ 気持ち伝わる ありがとう

西中学校 1年 三浦流星

【優秀賞】言葉づかい 実はひそかな 思いやり

西中学校 3年 甲斐昂介

人権標語 人権擁護委員の部

【大分人権擁護委員協議会会長賞】

きみのため ぼくがなっちゃん ヒーローに
川登小学校 5年 仲^{なか}野^の彩^{さや}香^か

【大分法務局人権擁護課長賞】

おもいやり つないでいたら なかよしだ
臼杵南小学校 2年 清^{きよ}原^{はら}性^い織^{おり}

人権標語 高校・一般の部

【市長賞】 考えて 他人事(ひとごと)ですか その差別

臼杵高校 2年 後^ご藤^{とう}舞^{まい}

差別がなくなる原因として、差別を身近に感じる事ができず、「他人事だ」「自分には関係ない」と思っている人がたくさんいるという現状があります。私たちはまず、差別について“考え”、差別があることで傷つく人が大勢いるということ“知る”ことが大切だと思います。私たち高校生ができることは限られているかもしれませんが、この標語を通して、少しでも多くの人に、世界の差別を意識してもらえたらな、と思います。
「無知は罪」差別のない世界になりますように。

【議長賞】 その言葉 たまにとげが 出てるかも

一般坂梨幸江

いつもみんなから声をかけてもらって嬉しいけど、一つの嫌な言葉で泣きそうなのもあるので、それを書いてみました。

【教育長賞】 周り見て 頼れる人は すぐそばに

津久見高校海洋科学学校 2年 東^{ひがし}優^ゆ衣^い

一人でいる人は、周りを見ずに一人でかかえこむ人が多いと思うから、周りをよく見渡したら頼れる人はすぐそばにいるはず、という気持ちで書きました。

【優秀賞】 生きている みんな笑って いたいよね

一般尾島舞

【優秀賞】 ありがとう 心の扉 ひらく鍵

臼杵高校 2年 濱^{はま}崎^{さき}藍^{あい}

【優秀賞】 あれは変 きめつけること それが変

臼杵高校 3年 佐^さ藤^{とう}香^か波^{なみ}

人権作文の部

【市長賞】

てっぺんがたいな

佐志生小学校 1年 亀井 明日真

ぼくのすむ、さじうはおとしよりの人がたくさんいます。学校にも、「こんにちは、がんばりよな。」

とこえをかけてとおつてくおほあちゃんたちがいます。こえをつかっていたり、シルバーカーをおしたりしています。

がじいじ、いじいじ、いしゃと車すのぎじたいけんのおへんぎょうがあります。せなかや、手足にサポーターをまいたり、めがねにヘッドホン、手ぶらをつけました。すじつかつこつになりしました。

めづいてみたら、足がまがりていへて、こけそつになりました。こわかったです。めがねもしたので、まわりが見えなくなつてしまいました。

おなじグループのひとが

「おちいへてよ。」

とつてくれたので、ちがつたです。

PTAで、ママもおなじことをしました。ぼくが

「おちいへてよ。」

とつてくれたので、

「おちいへてよ。」

「こじがまがつたままだと、きついなあ。」とつてました。

車いすにもつてみました。まがるとまがつかへてきせんとつた。

むずかしいんだなとおもいました。

さじうに、おせわをしつてくれたおねえさんからおはなしがありました。

おはなしのなかで、

「車いすにのるのは、めがわるい人が、めがねをかけるのとおなじなんだよ。」

とつたので、びくりました。でも、「あつそつなんだ」とおもいました。とくつなかなと、おもつていたけどちがうことがわかりました。こまつている人がいたら、

「ついでまじょうか。」

とつてくれるよつになりました。

【議長賞】

気付かされたこと

北中学校 2年 川^{かわ}野^の 明日香^{あすか}

私が幼稚園の頃に、障がいを持った子がクラスにいました。私は先生からその子のお世話を頼まれたことが何回かあったけれど、途中で嫌になったり、怖くなったりして先生に代わってもらうことが何度もありました。私が佐伯から白杵に引っ越してきて転入した小学校にも、クラスに障がいを持った子がいました。クラスの中には、その子のお世話を積極的に行ったり、一緒に遊んであげたりする子もいました。だけど、私はどうしても自分から「お世話してあげよう。」とか「話をしたり遊んだりしてあげよう。」とは思えなかったのです。

私が通っていた小学校は、近くの支援学校との交流が行われていました。支援学校の子たちは、みんな違う障がいを持っていて、車いすで移動する子、手話で会話をする子など色々な子がいました。みんなは、支援学校の子と仲良くなるように思っていて、もともと企画されていたレクリエーション以外の休み時間も話をしたり、一緒に遊んだりしていました。中には手話で会話をする子と話をうつつとして、支援学校の先生から手話を教えてもらい、「生懸命自分のことを伝えよう」としている子がいました。私はそんな子を見て、障がいのある子たちと仲良くできるなんてすごいと感心すると同時に、「何で仲良くできないのだろう。何で仲良くなれるのだろう。」という疑問を持ちました。結局、小学校を卒業するまでに支援学校の子たちと仲良くはなれず、持っていた疑問の答えを見つけれ

ることもできませんでした。

そんな私も今年、中学二年生になりました。北中では毎年一年生が学期に二回、計三回支援学校との交流を行います。その交流はひとクラスだけしかできず、今年は私が所属する二年一組が担当することになりました。担任の先生は「支援学校の子たちと仲良くなくて楽しい。」などと言っていて、喜ぶクラスメイトもいましたが、私はあまり気が進みませんでした。一緒にすることやペアの子も決定し、支援学校との交流会当日を迎えました。支援学校に向かいながら「今回の交流会では支援学校の子と仲良くなるよ。」と思い、前よりも積極的に活動に参加しようかと決意しました。支援学校に着くと私のペアの子が休みだと聞き、その日だけ別の子とペアになりました。そして、交流会が始まりました。支援学校の人たちは私たちのためにプログラムを作ってくれたり、案内や説明をしたりと何をするにも、とても生懸命でした。そんな姿を見て、私は「うれしいな。」とか「すごいな。」と自然に思えるようになっていきました。私のグループはかき氷をつくっていたのですが、支援学校の子が氷を削る行為にはまってしまい、何度も何度も削りたそうにしている、実際に削った時は、とても楽しそうにしていました。だけど、その子は冷たいものが苦手な先生が食べさせようとすると、削る時とは違ってかわつても嫌な顔をしていました。私は面白い子だなあと思っていて見えました。かき氷を食べているときに、その子のお気に入りの物を見せてくれたりしました。私は「楽しかった。」という気持ちで交流会を終えることができました。

支援学校との交流会が終わって、私はやっと小学校の時からの疑問の答えを見つれることができました。その答えは「自分が心を閉ざしてい

た。」でした。私は今まで障がいを持っている人たちを「普通とは違う」と知らないうちに決めつけて、仲良くしようと思っていなかったのです。けれど、今回の交流によって、私の考えがガラッと変わりました。自分から心を開いて相手と接すれば、好きなもの、苦手なこと、お気に入りものなどいろいろなことを理解することができました。障がいを持っている人たちは、普通の人と全てが違っているわけではなく、自分ではどうしようもできないハンデを持っているだけで、それ以外は私たちと一緒になんだと考えることができるようになりました。私はこの交流会で、支援学校の人たちと触れあえたからこそ、今までの自分とは違う考えや思いを持つことができたのです。

私は、自分でも気付かないうちに「障がい者差別」をしていました。けれど、何かの縁で出会えた支援学校の人たちが、自分の悪い心の部分を気付かせてくれました。だから、私は、気付かせてくれた支援学校の人たちのためにも、誰にでも心を開いて接することができる、心豊かな人間になれるように頑張っていきたいです。

【教育長賞】

「コミュニケーションで分かる」と

野津小学校 6年 後藤和叶

私の弟は、人がたくさんいたり、音がいろいろ聞こえたりするとパニックになってしまふという発達障がいがあります。全校集会の時に、かんしゃくを起こしてしまつて、立ち歩いてしまったことがあります。その時、クラスの人が、私の方を見つめて、何も言われてないけれど、差別されているような気分になりました。私は、自分の弟のことで笑われることがまんできませんでした。

弟のことを初めて聞かされたのは、小学五年生のはじめでした。それまで私は、支援学級に通っている友だちと話した時に、頭の中で、「私とはちがう人」とか「距離を置こう」とかなどと思っていました。友だちと、「あの子、ちよつとちがうよね。」などと話したこともありません。

けれども、弟の話を聞かされたからは、そんな自分が、まちがっていたと思うようになりました。今でも友だちが、

「あいつはおかしいよね。」

とか言うことがあります。少しくやしいです。だから、「みんなと同じだよ。」と言いますが、やっぱりわかってくれない人もいます。調子に乗っているとかが言っていて、いじめたりする人の話も聞きます。

私は、弟の発達障がいについて、目に見えてわかるものではないから、ちゃんと話して「コミュニケーションを取ってわかってほしい」と思っています。

す。私も知識はあまりありませんが、いくつかの持ちょうといつもものがあります。

「二つ目は、指示を出されても、頭の中で次の行動に移すことを考えるのが苦手だよ」といいます。

私が家で、

「何をききたいのかを聞いてみる。」

「何をききたいのかを聞いてみる。」という感じで、次の行動に移すことができませぬ。おこっちはいけないし、やさしく教えないといけないとわかっているけれども、いついっいつい頭ごなしにおこっけいします。弟がわかりやすいように説明すれば、弟が怒られずすんだのに…と後でよく反省します。弟が、いつもわかるように、これからは説明を工夫しようと思っけています。

「二つ目は、人の輪の中に入ることが難しいといっけいことです。弟は、外で遊んでいる時も、一人で砂遊びをします。弟の同級生が、「遊んでくれないよっ。」といっけいしたことがありましたが、嫌いだからとかではなくて、人がたたくさんいるところに入るのがいやだからなのです。弟は、今幼稚園児です。小学生になれば、人の輪の中に入るといっけいことが大切なので、訓練をしています。そして、家に帰ってから、私の同級生とも遊べるようになりました。一人で遊んでいると、友だちが、

「おかしがあるから、こっけいで遊ぼう。」

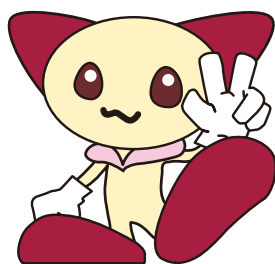
といっけいしてくれます。私もつれいっけいします。おこっけいした二言がこんなにも助けになるんだなあと思っけていました。

「三つ目は記憶力がすげいっけいことと、得意なことには大いに力を発揮することです。幼稚園児なのに、ひき算ができます。人の名前を覚えるのが

とても速いです。そんな得意な部分をみんなに分かってもらいたいのです。

障がいのある人に差別をする人は、ちゃんとその人とコミュニケーションをとつてもらつて、人として、同じ人間とみてつながりを持ってほしいです。

私は、将来障がいのある人たちを支援する仕事について、いろいろな差別や苦しみを取り除いてあげたいと思っけています。



【優秀賞】

友だちのじょうと

海辺小学校 2年 丹生妃翠

わたしのクラスには、少し、気になる人がいます。それはAさんとBさんです。朝読書するとき、みんなは、しずかに読書をしているのに、大きな声で話をするんです。わたしは、本を読んでいて、うるさいなあと思います。今日、朝読書にあったことは、Aさんは「うんこ」という本を読んでいます。そして大きな声でうんこのことを言っていました。こんどはBさんもいつしよに大きい声で言っていました。わたしは、がまんできなくなつて、ちゆういをしよつとしたら、光さんが、ちゆういしてくれました。光さんは、「うんこ読んど」「うんこ読んど」はすじいと思ひました。「うんこかこい」「うんこかこい」「うんこ読んど」で「うんこ読んど」がAさんとBさんの気もちを考へてくるなあと思ひました。

先生が来て、わたしは朝読書のとぎのじょうを話しました。

先生は、「光さん、えらかつたねえ。」とほめていました。わたしは、光さんがほめられて、よかつたなあと思ひました。

AさんとBさんは、先生と二人で話をしています。わたしたちは、かけざんのれんしゆうをして、まっています。わたしは、まっているあいだ、何を話しているのか気になりました。AさんとBさんが、わかつてくれるとすいなあと思ひました。まっています。

あと、先生が、「AさんとBさん」「うんこ読んど」

の気持ちを考へてね。しゃべりたくなくても、こころのブレーキをつかつてね。」と話したよ。」と話してくれました。わたしは、よかつたなあと思ひました。

AさんとBさんは、ときどきうんこ読んどを考へて、元氣だといふ友だちです。先生が「AさんとBさん、いい所は、何かな。」と言つたので、考へました。

Aさんは、いつも大きな声で、あいさつしてくれます。わたしが紙ひこつきの作り方がわからないとき、「おしえて。」と言つたら、「いいよ。」と言つて、よくとぶ紙ひこつきを

「あげる。」とくれました。やさしいなあと思ひます。

Bさんも大きな声であいさつしてくれます。サッカーが上手です。いろんなことを「すげえ。」と言つて、よろこぶくれます。なんかわたしもつれづれなすま。

AさんとBさんも、うんこ読んどもあつて、うんこ読んどもあつてあつて。わたしは、光さんのよつに、ともだちの気もちを考へて、言えたらいいなあと思ひます。クラスのみんなが、ともだちの気持ちを考へて、言つてあげて、もつとなかよしになりたいなあと思ひます。

【優秀賞】

思い切つたら

日杵小学校 3年 須賀 けんじ

わたしはこの前、道徳の時間に『思い切つたら』というお話の『』というお話を勉強しました。このお話は、あやといつ人がともよといつ人に

「日曜日に公民館でフェスティバルがあるから女子をみんなさそつて行つて。」

とねましたけど、

「ちよみに言つたらだめよ。あの子は生意気だから。」

と、差別のようないことを言つていこうから始まります。ともよは「みんなで行つた方が楽しいのよ。」と、ちよみにをなづかひつかなやみまします。ると、ちよみのほつつかひ

「私もいつか行つてみたい。」

と聞かれて、ちよみはななと云えはいるのが、わからなくなると話します。

わたしは、このお話を読んだ、ちよみがいふすればいいのかを考えた。わたしは、ちよみはちよみ、

「さよよ。」

と云つて、あやとい

「ちよみだけだめとか言つたらかわいそつだから、ちよみにいふ言つたからね。」

と云えは、さよよと思つました。なぜか、さよよ一人だけ誘われなつて、ちよ

みは「ななで私だけななわれなつて。」と、さよよ持たになつて、さよよ持たになつて、さよよ持たになつて。

もし、ちよみにいふ、と云つたら、あやといはあやといと云つても、さよよも公民館に行かなくなるかもいれませぬ。また、あやといはあやといといわれるかもいれませぬ。ともよ、ちよみをいふつたら、あやといはあやとい、自分のまよもやが大きくなりませぬ。わたしは「さよよ」といふのが正しいと思ひます。正しいことを言つには、勇気が大切だと思ひました。だめと言われたときに、それと反対のことをするには、勇気がひつようだからです。

私には今までのともよと、同じようないことがありました。中休み、

ほとんと毎日Aさんから遊ぼうと言われませぬ。あやとい、そのAさんと

「Bさんと遊ぼう。」

と、言つていふまじりました。そのとき、ちよみのAさんといふ言えなかつたかといふ、Bさんとから文句を言われなつたからませぬ。AさんとBさんはよけいんかをいませぬ。Aさんから先にAさんとわつたので、AさんとをいれぬとBさんといふやな、いふ言えを言われぬのがいふたので、いませぬ。

今は、その時、いふや、いふ言えはあやといか、いふ言えはあやといか、わたしは本当はAさんといふ言えをいふ言えに遊びたかつたからませぬ。

道徳の勉強からいふ言えをいふ言えに、同じい言えがありました。そのとき、いふ言え。「と自分の言葉でいふ言えをいふ言え。自分の思つていふ言えをいふ言え。いふ言え。」と、勇気を出して言え、すつきりした。「と思ひました。これから、友だちに聞くのはなな、自分がいふ言えをいふ言えをいふ言え、正しいと思つた、いふ言えを持ていふ言えをいふ言えをいふ言え。

【優秀賞】

Aくん

福良ヶ丘小学校 4年 渡^{わた} 辺^{なべ} 咲^{さく}

ぼくのクラスには、ちょっとしたことですぐに泣いてしまう、Aくんという子がいます。その子は、友だちがどんな気持ちなのかなど、少しわからないことがあります。だから、女子にへんなことをしたり、ちょっかいを出したりしてしまいます。ぼくはそんな様子を見かけると、つい悪口を言ってしまう。

ぼくは、一・二・三年生の時、Aくんがへんなことをしたりちょっかいを出したりしてゐると、つと悪口を言っていました。でも、四年生になってAくんのことをちょっと考えてみようと思いました。

ある日、Aくんがいつものように泣いていた時、ぼくはかばつてあげました。それで終わればよかったのですが、Aくんにまだ悪口を言っている人がいました。ぼくもつい最後までかばいきれなくて、悪口を言ってしまう。

直ぐつと悪いことも、直せませんでした。なんで直せないんだろうとばかりに思います。もともと、ぼくはすぐ悪口を言う方なので、学校でもがまんするところがきついです。言ってしまうのではないかと思いました。ぼくは、つとつと悪口を言った後とかにあやまることができたのやしろ。」「と、思いました。

この前、ある日けんがおきてしまいました。クラスの数人が、Aくんがしたつとつと、けんをいじめたことをいって、ちょっかいを

出したりしました。その時、ぼくはちょっかいを出していた数人を止めることができませんでした。その後、先生が来て事情を聞いてもらった後に話し合いました。ぼくは、ちょっかいを出していた人たちを止められなかったことに対してAくんにあやまりました。Aくんはゆるしてくれました。

その日けんがあつた後、ぼくが教室で歩いていたらAくんがいました。近づいてきたので何をするのかなと思ったり、ぼくの手のひらをマッサージしてくれました。とても気持ちがよくて、何回もしてくれました。あんなに悪口を言ってしまったのに、マッサージをしてくれて、Aくんのいいところをみつけることができました。

ぼくは、今度Aくんが悪口を言われたりちょっかいを出されたりしていたら、すぐにかばいたいと思います。それと、ぼく自身が悪口を言わないように気をつけたいです。

【優秀賞】

五年生になって学んだこと

市浜小学校 5年 亀井 真斗

「Aさんの後になる人、かわいそうやな。」

一学期、歯科検診があった。そこで、ぼくは早く終わって教室にもどった。その時、友だち三人とAさんについて言った。言ってしまった時は、つい言ってしまったという感じで悪いなという気持ちもなかった。

すると、ぼくらの発言を聞いたBさんが、「そんなこと言っちゃいけないよ。先生に言っちゃ。」

と言った。ぼくは、心の中でこの時はじめて、「あっ、しまった。」と思った。先生におこられるとも思ったが、何よりAさんに対して悪いことを言ってしまったという気持ちの方が強かった。

その後、ぼくたちは、先生におこられた。おこられる中で、先生から差別についても話があった。ぼくは、たくさんいる女の子の中でAさん一人をとりあげ、悪いことを言ったことが差別につながることに気づいた。そして、Aさんに対して、もうしわけない気持ちになった。

家に帰っても、お父さんからこのことを聞かれ、注意された。学年集会でも、このことがとり上げられ、話し合った。ぼくは、自分の軽い気持ちで言ったことが、差別につながり、ここまで大きなことになるとは思ってなかった。ぼくは、一学期と同じくらい悩んでいたと決心した。一学期の終わりのころ、ぼくは、このクラスのみんなが給食の食入方について、同じ班の友だちから悪口を言われるということがあった。ぼくは、

「そんなこと言っちゃいけないよ。」

と言った。同じ班の友だちも悪口を反省して、すぐにまた元のじょうつたになった。悪口を止めたぼくは、このことはとてもよろこびた。ぼくは、

今回、この悪口を止めることができたのは、前に自分がAさんに対して悪いことを言ってしまったときの経験が生きていると思う。

ぼくたちのクラスは、「みんなが安心してえがおですること」ができるクラスをめざしている。国語の勉強では、「もっと言葉じかいのよい市浜小にするために、意見文を書いて、全校のみんなによびかけよう」という学習をしている。ぼくは、五年生になって、人を大切にすること、友だちを大切にすること、たくさんのお話を学んだ。これは、自分にとっていい経験になったと思う。これから、ぼくは、友だちを大切にしたい。クラスの一人として安心してえがおが過すことができるように協力していきたい。そして、ぼくたちが来年なる最高学年の市浜小は、全校のみんなが友だちを大切にしたい学校にしていきたいと思う。



【優秀賞】

障がい者と向き合ったために

北中学校 1年 長曾我部 陽里

お店やお祭りなどの行事で、身体が不自由な人、つまり障がい者を見かけることが多いと思います。その時あなたはその人をどう感じ取っていますか。「うわっ、変なの。」「関わりたくないなあ。」と思っている人が多いのが現実です。私も去年までそう思っていました。しかし、小学校の登校班に障がいのある女の子が入学してきたことから、障がい者に対する私の思いが変わっていきました。

その子は耳が少ししか聞こえず、普通の子より言いたいことがうまく言えない子でした。だから、「コミュニケーションがあまりできないから、最初は、「支援学校に行けばいいの。』」と思っていました。その当時、私は登校班のリーダーだったので、ほかの班長より人一倍不安でした。ただでさえ人数が多いのに、プラス障がい者をちゃんとつれていかなきゃならないの……。そういうプレッシャーが強かったことを覚えています。実際、その女の子と一緒に登校するのは難しく、大きく遅刻することがほぼ毎日でした。もう八時なのにまだ半分も歩いていないということがたくさんありました。そんな時は下級生に先生を呼びに行ってもらうこともありました。学校に着くのが遅くなったせいで、途中から授業を受けることが多くなったので、テストの点が悪くなりました。こんなことが、頻繁にあったのでその女の子と一緒に登下校することが限界で嫌になってしまいました。

しかし、あることがきっかけで、その子やほかの障がい者に対する私の気持ちが変わっていきました。その「あること」とは、障がいをもっているあの女の子へのいじめです。いわゆる、「障がい者差別」です。同じ登校班の女子二人が、急にその子をいじめ始め、それを見たほかの下級生も一緒にいじめていました。少し前まで、その子をすべく可愛がって遊んでいた子が、突然冷たくなっていたので怖さと驚きでいっぱいになりました。いじめの内容は、ほとんどが嫌がらせ、道の端にある犬のフンを踏ませたりしていました。いじめの中心にいた女子二人は、「障がい者だからいじめられていることを誰にも言わないだろう。」と思っていたらしく、いじめはエスカレートしていきました。しかし、すぐに先生がいじめがあったことがわかって、その子の親の耳に伝わり、いじめはおさまりました。誰が言ったのか気になってその子に聞いてみると、「わたしが言った。」と、いつもよりはつきりとした言葉で返事が返ってきたので驚いたし、何より、自分から「いやだ。」といったことのないその子が、初めてつらい本音を先生や私に伝えてくれたことに感動しました。入学したこのころは、乱暴で言うことも聞いてくれなかったけれど、今は思ったことをきちんと伝えてくれるので、他の子と変わらなれないと思います。むしろ、いじめをした女子二人より、そのの方がずっとすばらしい人だと思いました。だから、普通の人や障がいをもっている人を差別したり、ばかにする権利はないと改めて思いました。

障がい者と会う機会は他にもありました。障がいをもっている子どもたちが通う「支援学校」との交流会です。小学校の行事として毎年行われてきました。しかし、私たちの同級生の子は症状が悪く、医師の許可がないと交流できないので、一年生の頃から一回しかあったことがありま

せん。それだけその人は苦しいのだと思います。ずっと車椅子に乗って、上手くしゃべれなくても頑張って絶えている強い心を、目つきや表情だけを見て、ばかにしたりからかったりすることや壊してしまうのは最低だと思います。

現在、障がい者を悩ませている差別問題は「就職」と聞いています。障がいを持っているというところを理由に、断られたり、地味なところで仕事をさせられたりしています。しかし、障がい者たちは、身体に何の自由なく生まれてきた私たちより、人一倍がんばっているのです。がんばる姿を見捨てず、どんな仕事ができるかを周囲の人がもっと良く考えていく必要があると思います。私たち子どもは、同世代の障がいをもっている子どもたちに、やさしく接したり、仲良く遊んだりして、その私たちのストレスや悲しみを少しでもなくし、楽しい未来を共につくっていったらいいと思います。

障がいを持っている人も、持っていない人も同じ人間です。障がいをもっている、自分と違うところこその人たちを差別するのは、心が狭い人間です。私はそんな人になりたくないから、相手のことを本当に思いやることのできる人になりたいです。

【優秀賞】

左手の法則

野津中学校 3年 竹尾 皆子

皆さんは、「フレミングの左手の法則」というものを知っていますか。中学二年生になると、理科の電気の授業で教えてもらうと思います。親指、人差し指、中指で磁界中の関係をそれぞれ表すというものです。分かり易くて便利なものだとは私は思っていました。しかし、最近ではその「フレミングの左手の法則」を教えるのがいけないことだと考える人達がいるそうです。初めてその話を聞いた時に、私は「何でそれが悪い事なんだろう？」と、本当に理由が分かりませんでした。その理由を聞いたら、「その指が出来ない子もいるから、人権的にダメらしい。」ということでした。しかし、その理由を聞いても私にはその意味が理解できませんでした。「左手の法則」の指をするのは、私にとっては凄く容易なことであつたからです。それにも、その指が出来ないのなら、「私は出来ないな」「へらいで良い」と思っています。別にそれは、悪いことでもなければ、恥ずかしいことでもないからです。それでは何故そんなことが人権問題になるのでしょうか。そこまで考えてから私はある一つの答を見つけました。「左手の法則」が出来ないくらい、たいしたことないと考えるのは、私が出来ない側の人間だからだと。出来ることが当たり前の中には、分かるようにしなければ、できないことがどれだけ嫌で恥ずかしいことかは分かりつこないのです。

そしてついに、「出来ない子もいる」と聞いたとき思ったことがあ

ります。「出来ないってこれが？」と。馬鹿にしているわけではなく、ただ出来ないと考えたことがない私には、ありえなかったのです。

みなさんも、そんな経験はないでしょうか。自分にとっては当たり前ですが、他の人にとっては当たり前ではないこと。その凝り固まった考え方が原因でトラブルが起ってしまったことは。

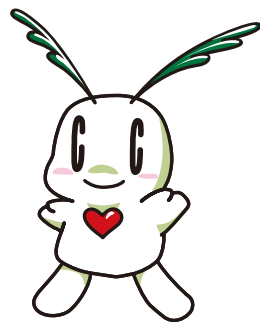
私はそんな経験があります。以前私は、吹奏楽部の部長をしていました。私にとって、部活というものは何よりも楽しく、夢中になることが出来て一番大切なものであり、優先すべきものでした。吹奏楽部員は当然全員がそうである、いや、そうであるべきだと思っていました。夏のコンクールが目前に迫っていたときの昼休みなどは、遊ぶ時間を惜しんで練習に励んでいました。そんなある日、一人の後輩が、「美術の授業で取り組んでいる絵が完成していない」という理由で、昼休みと放課後の部活に来ませんでした。

私は最後のコンクールが近くて余裕がなく、ペリペリしていたので、正直に言うと「絵ぐらい別に良いんじゃない？部活を優先すべきでしょ？」と思います。その雰囲気伝わってしまったのか、その後輩と「気まずくなってしまう、二人で話し合いをしました。その後輩は部活に行けなかったことを申し訳ないと考えて私に謝ってきました。そこで私が絵を優先した理由を尋ねました。

「私は絵が好きで、将来は美術の学校に進みたいと考えています。私も部活は好きで大切だけれど、それ以上に絵が好きなんです。」

私はそれを聞いて、考えを改めようと思いました。それは「自分にとって当たり前のことが、相手にとって当たり前であるとは限らない」ということです。私にとって部活は何より大切なことが当たり前だったけれ

ど、後輩にとってはそれと同じように絵が大切であること。その違いを認めること、理解し合うことが大事なのではないでしょうか。考え方や大事に思うことが他人と自分が違うことは仕方ないことです。だからこそ、その違いを否定するのではなく、尊重し合ってほしいのです。そういうことが、人権を守る一歩につながるのではないのでしょうか。



臼杵市部落差別撤廃・人権擁護に関する条例

平成 17 年 1 月 1 日

条例第 120 号

(目的)

第 1 条 この条例は、すべての国民に基本的人権の享有を保障し、法の下での平等を定める日本国憲法の理念及び同和対策審議会答申の精神にのっとり、市民の責務、市の施策その他部落差別撤廃・人権擁護に関し必要な事項を定めることにより、部落差別撤廃・人権擁護を図り、もって平和な明るい地域社会の実現に寄与することを目的とする。

(市の責務)

第 2 条 市は、部落差別の撤廃のために必要な環境改善対策に関する事業を迅速かつ計画的に実現させるとともに、就労対策、産業の振興、教育対策、啓発活動及び人権擁護に関する施策を積極的に推進するものとする。この場合においては、住民の自主性を尊重し、自立向上の意欲を助長するよう配慮しなければならない。

2 市は、前項の施策を推進するため、総合的な計画を策定する。

(市民の責務)

第 3 条 市民は、部落差別及び人権侵害に関する行為をしてはならない。

2 市民は、相互に基本的人権を尊重し、国又は地方公共団体が実施する部落差別撤廃・人権擁護に関する施策に協力するように努めなければならない。

(実態調査等)

第 4 条 市は、第 2 条の施策の策定及び推進に反映させるため、5 年ごとに必要な実態調査等を行う。

(行政組織の整備)

第 5 条 市は、部落差別撤廃・人権擁護に関する施策を推進するため、行政組織の整備に努める。

(審議会)

第 6 条 市は、部落差別撤廃・人権擁護に必要な施策の策定及び推進に関する重要事項を調査及び審議するため、臼杵市部落差別撤廃・人権擁護に関する審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(委任)

第 7 条 この条例に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成 17 年 1 月 1 日から施行する。

臼杵市人権啓発キャラクター・シンボルマーク

FURI FURI

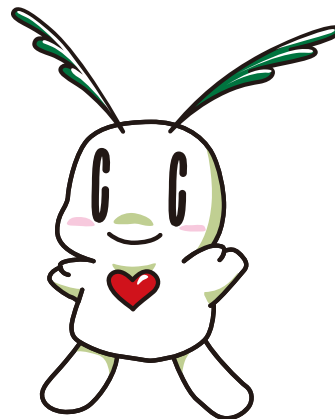
【作者】

三浦彩子 さん

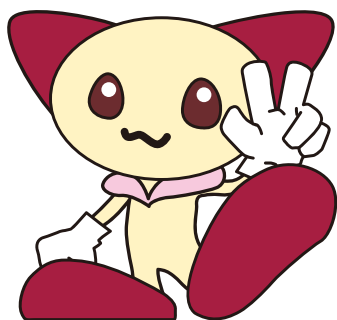
【企画意図】

全体として愛着の持てるキャラクターに仕上げようと思い、まるっこい体にしました。また、ずん胴な二頭身は臼杵の“白”からきています。頭の植物の芽は、臼杵の豊かな自然を表現していて、自然の心を癒す力も、人が人を受容するのに必要であるだろうと思い、つけ加えました。体の色も薄い緑色にすることで自然を表しています。目の形が“C”の形になっているのは、人権にはかかせない“Communication”（コミュニケーション）と“Company”（カンパニー：仲間）の両方の頭文字から各々とりました。手は悲しい事も楽しい事も全部だしきめてくれるようなミトン手袋のような手にしています。最後に胸のハートは、全てのものに対する愛情や信頼や心遣いを表現しています。また、周りの緑とは反対色のため少し目立つようになっています。

フリフリを作っていたとき、私の周りのいろんな人たちがたくさん案を出してくれました。フリフリはそんな愛情や友情いっぱいの中から生まれたのです。フリフリが人権の象徴となれることを嬉しく思います。



愛称: フリフリ



【作者】

首藤由香理 さん

【企画意図】

大きな耳は「聞く力」、大きな目は「見る力」、大きな手は「包容力」、大きな足は「支える力」を表しています。そして親しみのあるキャラクターを目指して創りました。名前はやわらかさを出したいので、あえて平仮名としました。《anima》生命、魂、心という意味があります。

愛称: あにま

SymbolMark

【作者】

首藤由香理 さん

【企画意図】

マークは見ての通り心は羽を表しています。2つの羽は学校が離れてしまった親友と私の心で「いつもそばにいるよ」という思いを重ねて見ました。

みなさんも心を寄せ合って羽ばたいてください。それは自分にとって周囲にとってもとても素晴らしいことだと思います。



シンボルマーク

臼杵市同和人権対策課

TEL 0972-63-1111